

1997・7

水道技術ジャーナル

第 4 号

CONTENTS

巻頭言 水に思う	樋口 成彬	3
エッセイシリーズ③ 「思い出雑感」	西銘 龍雄	4
設備システムの紹介④ 東京水道新世紀構想—STEP21について—	本山 智啓	7
設備システムの紹介⑤ 次世紀に向けた大阪市の水道地震対策 ～大阪市水道・震災対策強化プラン21の策定～	安藤 朝廣	11
特別寄稿 クリプトスポリジウム国際会議に出席して	金子 光美	17
〈高度処理MAC21を終了して 講演会抄録〉		21
●「後近代への水システムの展開と膜処理技術」丹保 憲仁		
●「次の展開を目指して」藤田 賢二		
特別企画〈座談会〉高度処理MAC21研究を振り返って		30
真柄 泰基 (北海道大学大学院 工学研究科教授)・森田 豊治 (旧・水道浄水プロセス協会会長)		
井出 基行 (旧・水道浄水プロセス協会技術小委員会委員長)		
〈司会〉藤原 正弘 (財水道技術研究センター専務理事)		
センターだより		38
平成8年度事業概要について		40
エジプト旅行記	砂廣 孝友	43
中国・天津市との水道の技術交流	中村 高也	45
センターからのお知らせ		47
新刊のご案内・編集後記		48

◆表紙写真：沖縄県企業局北谷浄水場◆

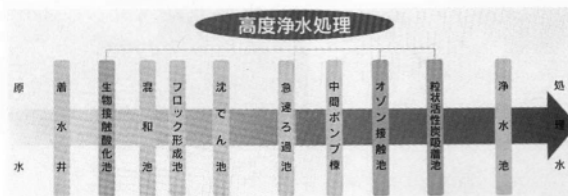
北谷(ちやたん)浄水場は、沖縄県企業局の浄水場で、同企業局の水道システムの中核施設の一つです。(表紙写真)

昭和57年度から建設工事に着手し、昭和62年6月から通水を開始しています。(施設能力214,300m³/日)

水源は瑞慶山ダム、北部ダム群、嘉手納井戸群、比謝川等の中部3河川に依存していますが、水質が悪化してきたため、生物処理、オゾン処理、活性炭処理の3工程を加えた高度浄水施設を導入しています。

高度浄水処理施設は昭和63年から着工され、平成6年度に完成しています。(フロー図)

また、沖縄本島は日本でも有数の渇水地域であり、過去、幾度となく渇水に苦しめられてきました。このため、こうした渇水時にも対応可能な施設として、日量4万トン/日の能力の海水淡水化施設が同浄水場に整備され、平成9年4月から4万トン規模での運転が可能となりました。もちろん、海水淡水化施設として国内最大規模であります。(写真1)



造水能力1万m³分のユニット